

# 平成 27 年度学校評価結果公表シート

学校法人 大藤学園

## 1. 大藤学園の教育目標

<b>体</b>	健康で、明るく、たくましい子ども (精神的にも豊かな個性のある意志の強い子ども、どんな困難をもつても克服する努力を続けるたくましい子ども) 健康なからだづくり(マラソン・サッカー・跳び箱・体操)
<b>知</b>	考える力を育てる 知識欲・好奇心が旺盛な子ども 創造性豊かでやる気のある子ども
<b>心</b>	「ありがとう」「ごめんなさい」と素直にいえる子ども 思いやりあるあたたかい心を持つ子ども 美しいものに感動できる豊かな心を持つ子ども

## 2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画

大藤学園の「こども・職員が幸せになるプロジェクト」の 2 年目。プロジェクトの方針と昨年度の反省点を踏まえて、労務管理に関すること、カリキュラム・行事の改善は今年度も継続していく。今年度の保育テーマ「探してみよう!!～みんなと一緒にステキな発見～」  
テーマをもとにした目標を、各年限の年間の指導計画・カリキュラム・研究保育に組みこむ。

- ①遊び・自然・環境における様々な発見を楽しむ
- ②友だちの魅力に気づくと共に、自分の魅力にも気づき、自分の自信へと繋げる

## 3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取り組み状況	評 価
(1) 年間指導計画・カリキュラムが目標の達成、3 年間の見直しにおいて適切であるか、月・学期ごと振り返る。	・3 年間の見直しにおいて年長を到達点と考え、年少・年中からの経験の積み上げが適切であるか、月・学期ごと振り返った。断片的な活動にならないよう、次へと繋げていけるよう、他の年限と連携を図ったが、その時の子どもの実態を保育者が適切にみとることが重要と感じた。	<b>B</b>
(2) 子どもたちの様々な発見に保育者が寄り添っているか。	・子どもを目線に立ち、声を聴くことで、一人一人に寄り添えるよう努力した。 ・子どもたちの発見にただ寄り添うのではなく、保育者の準備、発見を展開させる保育技術・知識が必要と随所に実感した。	<b>B</b>

<p>(3) 子どもたちの発見が。子どもたちの自信（自己肯定感）につながる配慮がなされているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年限によって評価のバラつきがあった。</li> <li>・年少・年中では一人が発見したことをクラス全体へ、クラス全体から一人一人へとつながりを持たせることが難しかった。しかし、年長では話し合いの場で活かすことができ、自信へとつなげることができた。</li> </ul>	<p>B</p>
<p>(4) 労務管理において、仕事の見える化。担当で行なう仕事内容を職員間に発信する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行事の準備などで、年限によって仕事の量の差が出てしまった。</li> <li>・ホワイトボードに次の準備を記入することで、仕事が明確になり、準備のし忘れがなくなったので、継続していく。</li> <li>・仕事の見える化と時間配分が今後の課題と思う。</li> </ul>	<p>C</p>

#### 4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理 由
<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの発見に寄り添う保育を行なう心掛ける事で、保育者自身が変わりつつある。</li> <li>・子どもの発見に気付くには、保育者の準備、知識が必要であり、どのような環境設定・準備を進めていくかが課題となった。</li> <li>・保育後の仕事の進め方は、全体と個人の区切りをつけて、今後は仕事の見える化をはかっていく。</li> </ul>

#### ◎「3. 4. 」の評価結果の表示方法

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取り組みが不十分である

#### 5. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
<p>・子どもたちが自ら気づき、発見・発想ができる環境設定。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自由あそびでのコーナーを定期的に見直し、より遊びこめる環境作りを行なっていく。</li> <li>・子どもたちの発見、発想を活かせるよう配慮をしていく。</li> </ul>
<p>・子どもの主体性が生きる保育者のかかわりを学ぶ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修などで学んだことを、保育者間で共有し、保育の質を高める。</li> <li>・同じ活動をしていても、保育者の捉え方に違いがあるので、お互い良いアイデアを学び合い、共通理解に繋げる。</li> </ul>

## H27年度 大藤学園自己点検自己評価

101 人

	A	%	B	%	C	%	D	%
1 園の教育理念・教育方針の理解	22	22%	69	68%	10	10%		0%
2 保育計画の立案・確認	38	38%	54	53%	8	8%	1	1%
3 環境の構成	44	44%	48	48%	9	9%		0%
4 保育計画の評価・反省	58	57%	37	37%	6	6%		0%
5 幼児のみとりと理解	48	48%	63	62%	5	5%		0%
6 健康と安全への配置	57	56%	41	41%	3	3%		0%
7 指導と関わり	38	38%	50	50%	3	3%		0%
8 保育者同士の協力・連携	46	46%	45	45%	10	10%		0%
9 社会人・保育者としての良識とマナー	54	53%	45	45%	2	2%		0%
10 保護者への対応	38	38%	55	54%	8	8%		0%
11 研修と研究	22	22%	61	60%	18	18%		0%
12 役職と職務	5	5%	6	6%		0%		0%
合計	470		574		82		1	